

並木北コミュニティハウス展示貸出企画2025Vol.2
「彩の児童文学作家 安房直子の世界」
展示図書一覧(1)

分類	図 書 名	絵	出版社	内 容
1	さんしよつ子	いもと ようこ	金の星社	すずなのお手玉をくすね声をまねて歌も覚える。時は経ち大人になったすずなの嫁入りを見送る三太郎に思いを寄せるさんしよつ子だったが、その声を三太郎はすずなと思ひ込む。
2	もぐらのほったふかい井戸	いもと ようこ		お金を拾ったモグラのモグ吉はわずかな土地を買い、年月をかけて井戸を掘る。おいしい水が評判を呼び、儲けた穴の開いた銀貨を束ね首飾りにする。ある日、モグ吉の所へ水がほしいと一匹の子ねずみが訪ねてきた。
3	だれも知らない時間	いもと ようこ		カメラから寿命を分けてもらい、一日が25時間になった良太。増えた1時間で太鼓の練習をしていると、だれにも聞こえないはずなのに少女が訪ねてくる。その少女もまたカメラから時間を分けてもらった一人だった。
4	ねこの結婚式	いもと ようこ		のどかな日曜日の朝のこと。新聞を読んでいると、のら猫のギンが結婚式の招待状をとどけにきました。「じつは、こんど結婚することになりました」……さて、そのお相手は？ユーモアあふれる語り口と読後の余韻が心地いい！
5	空色のゆりいす	いもと ようこ		目の見えない娘にひとつ色を教えられるなら空の色を教えたい、そう思ったいす作りの父が青い絵の具を探していると、空の絵を描いている不思議な男の子に出会う。男の子は空にかかった虹から青い絵の具を取っていく。
6	ひめねずみとガラスのストーブ	降矢 なな	小学館	風の子のくせに寒がりのフーは、くまのストーブ店でガラスのストーブを手にいれます。美しいストーブに火をつけて暖まっていますと、ひめねずみがやってきました。「お日さまがおこちてきたのかと思った」ガラスのストーブは、心まで温くなるようでした。
7	くまのがっきやさんはるかぜのたいこ	葉 祥明	金の星社	野原のまんなかの大きなにれの木の下にある小さなお店「ふしぎや」という名前のお店にはみどりのベレー帽をかぶったくまがいます。お店にならんでいるのは、いろいろな楽器。この楽器がとっても不思議なんです。
8	くまの楽器店	こみね ゆら	小学館	「くまの楽器店」は、緑のベレー帽をかぶったくまが営む小さなお店のお話です。看板には「ふしぎや」とかかれており、訪れる人達は必ずしも楽器を探しにくるわけではないのです。お客さんとくまのやり取りは、さりげなく、でもとても心が優しくなれるお話ばかり。
9	ひめリンゴの木の下で	伊藤 正道	クレヨンハウス	それは、とても小さなアイロンでした。てのひらにのるほどのアイロンでした。森の道で、このアイロンを見つけたみち子。ポケットに入れ歩いていくと、誰かがかえしてくださいと言いました。でも振り向いても誰もいません。
10	うさぎのくれたバレエシューズ	南塚 直子	小峰書店	バレエをならいはじめて5ねんもたつのに、女の子はじょうずになりません。うまくなるように、月にも星にもおねがいしました。
11	てんぐのくれためんこ	早川 純子	偕成社	たけしはてんぐにもらっためんこを持って、林の奥で子ぎつねたちとめんこをしました。親ぎつねたちも現れ、白熱した大勝負です。

並木北コミュニティハウス展示貸出企画2025Vol.2
「彩の児童文学作家 安房直子の世界」
展示図書一覧(2)

分類	図書名	絵	出版社	内容
12	安房直子絵ぶんこ1 ふろふき大根のゆうべ	アヤ井アキコ	あ す な ろ 書 房	さむいさむいたぐれどき、峠の茶店の茂平さんは、山道で出会ったいのししにほりたての大根をわけてあげました。するとその晩、いのししが集まる「ふろふき大根の会」に招待され……。読むと心がほっとあたたかくなる
13	安房直子絵ぶんこ2 猫の結婚式	西 淑		のどかな日曜日の朝のこと。新聞を読んでいると、のら猫のギンが結婚式の招待状をとどけにきました。「じつは、こんど結婚することになりまして」……。さて、そのお相手は？
14	(安房直子絵ぶんこ3 空にうかんだエレベーター	えがしら みちこ		「満月の晩にまた会いましょう」子ども服のお店のショーウィンドーにかざられているぬいぐるみのうさぎさんは言いました。そして……。
15	安房直子絵ぶんこ4 遠いのぼらの村	高橋 和枝		谷間の小さな村で雑貨屋をひらいているおばあさんは、遠い村で働いているという息子の話をよくしていました。でも村の人たちはみんな知っていたのです。おばあさんに息子はいなくて、昔からのひとりぐらしだったことを。ところがある日、「孫娘の干枝ちゃん」がひよっこりやってきて…。
16	安房直子絵ぶんこ5 雪窓	長谷川 あかり		山にはふしぎなものがたくさんすんでいます。はじめて雪がふった晩、おでんの屋台「雪窓(ゆきまど)」に、ちょっと変わったお客さんがやってきました。
17	安房直子絵ぶんこ6 ひぐれのお客・初雪のふる日	松村 真依子		冬のはじめのひぐれどき、裏通りの手芸屋さんに、黒猫がやってきました。黒猫は黒いマントにうける赤い裏地をさがしているというのですが……。『初雪のふる日』どこまでもつづく石けりの輪。女の子がかかる気持ちでその輪にとびこむと……？
18	安房直子絵ぶんこ7 北風のわすれたハンカチ	eto		「どなたか音楽をおしえてください。お礼はたくさんします。」こんな張り紙のある熊の家に、つめたい風と共にやってきたのは、青い馬にのった青い人。てつきり音楽を教えてくれるのかと思いきや……。
19	安房直子絵ぶんこ8 海の館のひらめ	くの まり		レストランアカシアにつとめる島田しまおは真面目に一生懸命働いているのに、いつまでたっても皿洗い。もうお店をやめよう、と決心したその時「しんぼう、しんぼう」とふしぎな声が聞こえてきました……。
20	安房直子絵ぶんこ9 あるジャム屋の話	伊藤 夏紀		森の中の小さなジャム屋。ジャムの味はとびっきりなのにちっとも売れません。どうしたものかと困っていたら、ある夜、思いもかけないお客さんがやってきて……。
21	ハンカチの上の花畑	岩淵 慶造		あかね 書房
22	春の窓 安房直子ファンタジー (「日暮れの海の物語」、「海からの電話」収録)		講談社	どこかなつかしい身近な日常からはるかな空想の時間へといざなう安房直子ファンタジー。売れない絵かきの家を訪れた不思議な猫の魔法を描いた表題作「春の窓」をはじめ、心を静かに整えてくれる十二編を収録。